

教科	国語	学年	第2学年
----	----	----	------

単元名	時数	学習内容 (△知識・技能 ○話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
じゅんぽんに ならぼう	1	○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。(思・判・表A(1)エ)	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞いている。(A(1)エ)	【態】自分が聞きたいことを粘り強く集中して聞き取り、学習課題に沿って声をかけ合い、正しい順番で並ぼうとしている。
絵を見て かこう つづけて みよう	1	○第1学年に配当されている漢字を文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○想像したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ)	【知・技】第1学年に配当されている漢字を文章の中で使っている。(1)エ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、想像したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。(B(1)オ)	【態】絵の中から進んで書くことを見つけ、これまでの学習をいかして文章を書くようとしている。
ふきのとう	9	◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)	【態】場面の様子を表す言葉を手がかりに粘り強く物語の内容を確かめ、これまでの学習をいかして音読を工夫し、感想を伝え合おうとしている。
図書館たんけん	2	○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
春が いっぱい	2	○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
日記を 書こう	4	◎経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)	【知・技】言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】進んで経験したことから伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって日記を書こうとしている。
ともたちは どこかな	5	◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さ	【知・技】 ・音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えている。(A(1)エ)	【態】自分にとって必要なことを集中して粘り強く聞き取り、これまでの学習をいかして簡潔にメモしようとしている。
たんぼほの ちえ	10	◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ)	【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)	【態】粘り強く時間的な順序を考えて内容を捉え、学習の見通しをもって読んだ文章の感想を書こうとしている。
かんざつ名人に なるう	10	◎経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】書くために必要な事柄を進んで集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にし、これまでの学習をいかして観察記録文を書こうとしている。
いなばの 白うさぎ	2	◎神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。(知・技(3)ア)	【知・技】神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3)ア)		【態】進んで神話の読み聞かせを聞き、これまでの学習をいかして感想を伝え合おうとしている。
同じ ぶぶんをもつ かん字	2	◎第2学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を読み、文や文章の中で使っている。(1)エ)		【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字の読み書きに取り組む、学習課題に沿って、同じ部分をもつ漢字を見つけようとしている。
スマー	9	◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ)	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	【態】粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って自分の好きな場面を伝え合おうとしている。

<p>かん字の ひろば①</p>	<p>2</p> <p>◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ・語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p>	<p>【知・技】 ・助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。(1)ウ) ・第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p>	<p>【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)</p>	<p>【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文を書くとしている。</p>
<p>【じょうほう】メモをとるとき</p>	<p>3</p> <p>◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p>	<p>【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア)</p>	<p>【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p>	<p>【態】積極的に必要な事柄を集め、これまでの学習をいかして知らせたいことをメモに取ろうとしている。</p>
<p>こんなもの、見つけたよ</p>	<p>10</p> <p>◎句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p>	<p>【知・技】句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p>	<p>【思・判・表】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)</p>	<p>【態】事柄の順序に沿った構成を粘り強く考え、学習の見直しをもって、読み手に分かりやすく伝える文章を書くとしている。</p>
<p>あったらいいな、こんなもの</p>	<p>7</p> <p>◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)</p>	<p>【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p>	<p>【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)</p>	<p>【態】話し手が知らせたいことを落とさないように粘り強く聞き、学習課題に沿って質問をし合って考えをまとめようとしている。</p>
<p>夏がいつばい</p>	<p>2</p> <p>◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p>	<p>【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p>	<p>【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p>	<p>【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。</p>
<p>お気に入りの本をしょうかいしよう ミリーのすてきなぼうし</p>	<p>6</p> <p>◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができ。(知・技(3)エ) ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ)</p>	<p>【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ)</p>	<p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)</p>	<p>【態】進んで読書に親しみ、学習課題に沿ってお気に入りの本を紹介しようとしている。</p>
<p>雨のうた</p>	<p>2</p> <p>◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ○詩を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ)</p>	<p>【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク)</p>	<p>【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)</p>	<p>【態】粘り強く語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読し、これまでの学習をいかして詩を楽しんで読もうとしている。</p>
<p>ことばでみちあんない</p>	<p>3</p> <p>◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ)</p>	<p>【知・技】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p>	<p>【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えている。(A(1)エ)</p>	<p>【態】話す事柄の順序を粘り強く考え、学習課題に沿って相手を目的に導く道案内をしようとしている。</p>
<p>みの回りのものを読もう</p>	<p>2</p> <p>◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ) ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ)</p>	<p>【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア)</p>	<p>【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)</p>	<p>【態】積極的に身の回りのものから重要な情報を読み取り、学習課題に沿って、考えを交流しようとしている。</p>
<p>書いたら、見直そう</p>	<p>2</p> <p>◎文章を読み返す習慣をつけることともに、間違いを正したり、語と語や文と文の続き方を確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)エ) ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p>	<p>【知・技】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p>	<p>【思・判・表】「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけることともに、間違いを正したり、語と語や文と文の続き方を確かめたりしている。(B(1)エ)</p>	<p>【態】進んで文章を読み返し、学習課題に沿って間違いなどを正そうとしている。</p>
<p>かん字のひろば②</p>	<p>2</p> <p>◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p>	<p>【知・技】第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p>	<p>【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)</p>	<p>【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして日記を書くとしている。</p>
<p>どうぶつ園のじゅっい</p>	<p>10</p> <p>◎文の中における主語と述語の関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p>	<p>【知・技】 ・文の中における主語と述語の関係に気づいている。(1)カ) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p>	<p>【思・判・表】 ・「読むこと」において、時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)</p>	<p>【態】進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、これまでの学習をいかして、文章を読んで考えたことを友達と話そうとしている。</p>
<p>かたかなのひろば</p>	<p>2</p> <p>◎片仮名を読み、書くとともに片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p>	<p>【知・技】片仮名を読み、書くとともに片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p>	<p>【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p>	<p>【態】進んで片仮名を使って書く語を見つけ、学習課題に沿って文を書くとしている。</p>

ことばあそびをしよう	2 ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ)	【知・技】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)	【態】進んで、言葉の豊かさに気づき、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。
なかまのことばとかん字	2 ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。(知・技(1)エ)	【知・技】 ・第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書いている。(1)エ) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)	【態】進んで、言葉には意味によるまとまりがあることに気づき、学習課題に沿って仲間の言葉を集めようとしている。
かん字のひろば③	2 ◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ◎助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ・語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】 ・助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。(1)ウ) ・第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)	【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文章を書くようとしている。
お手紙	12 ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ) ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)	【態】進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、登場人物に手紙を書くようとしている。
かん字の読み方	2 ◎第2学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を読んでいるとともに、文や文章の中で使っている。(1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見分け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】進んで第2学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、漢字の異なる読み方に気づいて読もうとしている。
秋がいっぱい	2 ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎経験したことなどから書くことを見分け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見分け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書くようとしている。
そうだんにのって下さい	8 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表A(1)オ) ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選べることができる。(思・判・表A(1)ア)	【知・技】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んで話している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないで話している。(A(1)オ)	【態】積極的に相手の発言を受けて話をつなぎ、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
紙コップ花火の作り方	14 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)ウ) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)	【態】進んで文章の中の語や文を選び出したり、事柄の順序に沿って分かりやすく伝える書き表し方を工夫したりして、学習の見通しをもっておもちゃの作り方を説明する文章を書くようとしている。
にたいみのことば、ほんたいのいみのことば	2 ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)	【態】進んで言葉には意味によるまとまりがあることに気づき、学習課題に沿って、似た意味の言葉や反対の意味の言葉の組を作ろうとしている。
せかいーの話	1 ◇話し合いでクラスで行う遊びを決め、「クラスお楽しみ会」を開く。	【知・技】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3)ア)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)	【態】進んで昔話の読み聞かせを聞いて伝統的な言語文化に親しみ、これまでの学習をいかして、おもしろいと思うことを共有しようとしている。
かん字のひろば④	2 ◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)	【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書くようとしている。
みきのたからもの	10 ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ)	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) ・読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	【態】登場人物の様子を具体的に想像することに積極的に取り組み、学習の見通しをもってお話を紹介する文章を書くようとしている。
お話のさくしゃになろう	10 ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)	【知・技】文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ)	【思・判・表】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)	【態】事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿って物語を書くようとしている。

冬がいっぱい	2	◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書くこととしている。
ねこのおのはなびらはんたいことば	2	◎詩を読んで、感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで、感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	【態】詩を読んで感じたことを進んで共有し、学習課題に沿って詩を紹介しようとしている。
かたかなで書くことば	2	◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文の中で使っている。(1)ウ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】積極的に、片仮名で書く語の種類を知り、これまでの学習をいかして、片仮名を使って文を書くこととしている。
ことばを楽しもう	1	◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ)	【知・技】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ)		【態】積極的に、言葉の豊かさに気づき、学習課題に沿って言葉遊びを楽しもうとしている。
ロボット	12	◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ)	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	【態】文章を読んで、感じたことや分かったことを進んで共有し、学習の見直しをもって、本を読んで分かったことを説明しようとしている。
ようすをあらわすことば	4	◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】進んで身近なことを表す語句の量を増やして語彙を豊かにし、学習課題に沿って、様子を表す言葉を使って文を書くこととしている。
見たこと、かんじたこと	6	◎詩に対する感想を伝え合い、自分の詩の内容や表現のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、詩に対する感想を伝え合い、自分の詩の内容や表現のよいところを見つけている。(B(1)オ)	【態】進んで感想を伝え合い、これまでの学習をいかして詩を書き、読み合おうとしている。
カンジーはかせの大はつめい	2	◎第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書ることができる。(知・技(1)エ)	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書いている。(1)エ)		【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりし、これまでの学習をいかして漢字クイズに取り組みようとしている。
すてきなところをつたえよう	10	◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気づけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気づけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】積極的に語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫し、これまでの学習をいかして手紙を書くこととしている。
スーホの白い馬	14	◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	【態】文章を読んで感じたことや分かったことを進んで共有し、学習課題に沿って、最も心を動かされたことを伝え合おうとしている。
かん字の広場⑤	2	◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ・語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】 ・第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文を書くこととしている。
楽しかったよ、二年生	8	◎姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ◎相手に伝えるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気づけて使うことができる。(知・技(1)キ) ◎伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ) ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気づけて使っている。(1)キ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝えるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ)	【態】行動したことや経験したことに基づいて話す事柄の順序を粘り強く考え、これまでの学習をいかして発表しようとしている。
二年生をふりかえって	1	◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】進んで、経験したことなどから書くために必要な事柄を集めたり確かめたりし、これまでの学習をいかして、1年間の振り返りを書くこととしている。